

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすくら豊川教室		
○保護者評価実施期間	令和7年9月1日 ～ 令和7年11月20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31 (回答者数)	30.5
○従業者評価実施期間	令和7年9月1日 ～ 令和7年11月20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な活動プログラムで、子どもが自己選択、自己決定ができる場を提供できるような工夫をしている。例えば外出先の選択や作品作りにおける色や形の選択、運動遊びにおける遊びの内容等、物事を選択する機会を数多く提供している。	活動プログラムはマンネリ化しないよう新しい活動や内容を会議の場で意見交換しながら立案している。季節のイベント時には職員がクイズやシアター等の出し物をすることもある。	学校や保育園等、各関係機関との連携を図り、必要に応じて見学や情報共有等支援体制を整えていきたい。
2	活動プログラムについて、子どもの意見を取り入れながら職員間で意見交換し、立案している。学習、工作、運動遊び等様々なジャンルの活動を週替わりで計画している。	絵カードや写真、シール等を用いて、個々に応じた支援内容をその都度考えている。集団での活動参加が難しい児童にはカードや写真を活用しつつ、その子のペースに合わせた参加の仕方を日々模索している。	ペアトレ等の家族支援に関する研修会やイベントの実施を検討していきたい。連絡帳アプリや公式LINEも合わせて活用していきたい。
3	サービス提供記録や支援記録を写真とともに丁寧に記録、公開している。子どもの活動の様子や表情を写真で伝え、安心感や利用満足度を高めている。送迎時に口頭で直接保護者へ子どもの様子を伝える場合も、詳しく丁寧に情報共有を心がけている。	多機能型であることを活かし、児発、放デイのそれぞれの子どもが一緒に関われる機会を設けている。遊びの様子や関わり方等、互いに良い刺激となっている。	放課後児童クラブや児童館との交流、地域の他の子どもと活動する機会を必要に応じて検討していきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の保健・医療機関や保育・教育関係機関との連携が少ない。	学校との情報共有や連絡調整については基本的に保護者を通して行っている。保育所、学校、各事業所との情報共有に努めたい。	日頃から保育園、学校等各関係機関との連携を図り、お互いの情報共有や見学の機会を増やしていきたい。
2	地域の事業所や児童館等、交流の場が少ない。	子ども同士のトラブルやプライバシーの問題、保護者の理解等、配慮が必要となるため、日常的な交流は難しい。	利用児童及び保護者からの要望や関係機関との連携を図りながら、必要に応じて検討していきたい。
3	ペアレント・トレーニング等家族支援プログラムや家族が参加できる研修の機会がない。	当事業所が開所約2年ということもあり、家族支援プログラムを実施した経験が少ない。実施に向けた保護者への発信、準備等様々な事業所の取り組みを参考にしていきたい。	連絡帳アプリや公式LINE等を活用し、情報提供や研修の機会を設けていきたい。